

一般用

新しい年が明けましたが、コロナ感染症はまだ、世界中で猛威を奮っています。海外に郵便でニューイヤーカードを送ろうとしたら、今は受け付けていない国もありました。帰省の子どもたちのいない、いつもとは違ったお正月を迎えた方も多いと思います。とはいえ、医療関係者の必死の努力で、ワクチンや治療薬の開発も進んでいますし、今年こそ終息の糸口が見えることを期待しています。国際サーバスからのニュースレターを見ると、今できることをポジティブに呼びかける内容で気持ちが明るくなります。オンラインの活動だけでなく、本来のホスト/トラベラーの活動ができる日に備えて、断捨離をして部屋を片付けるとか、日本文化紹介の知識や技術を身に着けるとか、外国語を学ぶとか、できることは沢山あるように思います。何よりこういうときこそ会員同士の絆を大切にしたいものですね。今月号の、コロナ禍のさなかに行われた2つの交流報告は、私たちは一人じゃないということを思い起こさせるものでした。今年もよろしくお願いいたします。

日本サーバス中国四国支部長 U.T.

本号の内容

- 1 ごあいさつ
- 2 支部会報告 (2020 年度会計・支部活動報告・新役員決定ほか)
- 3 サーバスニュージーランドの会員 D.W.さんと中国四国支部会員との交流会
- 4 英国サーバスの会員 M.L.さんと U.会員との交流報告
- 5 お知らせとお願い (支部会員動向・LOI 作成方法の変更ほか)

2 2021年1月17日(日)の支部会報告

1) 2020年度会計報告 略

2) 2020年度支部活動報告

- ① 2020年12月末現在の会員数 12世帯
- ② 外国からのトラベラー アメリカより1名(デイホスト)
- ③ 会報発行 2020年2月号、2020年7月号の2回
- ④ 支部会等

2020年5月31日(日) オンライン、6名参加、年度初め支部会

2020年6月21日(日) オンライン、7名参加、国際フェスタについて

2020年6月28日(日) オンライン、7名参加、

国際フェスタ不参加決定、海外の会員との交流会の打ち合わせ

2020年7月5日(日) オンライン、7名参加、

ニュージーランドの会員Dさんとのオンライン交流会

2020年11月23日(日) オンライン、9名参加、役員改選について

2021年1月17日(日) オンライン、役員改選、2020年度のまとめ

3) 2021年度活動予定(案)

2021年 2月号会報(2020年度まとめ)

2021年3月13日(土)、14日(日) 国内会議(京都)

2021年5月16日(日) 支部会

2021年 6月号会報(国内会議、2021年度初め)

2022年1月16日(日) 支部会(2021年度まとめ)

4) 2021、2022年度の役員決定

2019年は中国四国支部再生の年、2020年は未曾有のパンデミックの年という大変な中で役員と支部会員の皆様には本当にお世話になりました。次年度の再任、新役員そして新担当の方々どうぞよろしくお願いします。

支部長：U.T.

副支部長：S.S.

会計：K.K.

会計監査：Y.T.

ホストコーディネーター：U.S.

企画：H.T.、企画補佐：U.S.

広報：S.Y.

書記：輪番制

5) 2021 年度会費について 当支部の事情と今後に備えるため、例年通り 3,000 円に決定しました。

6) 国内会議に向けて

3つの審議事項（A 業務担当、making connections project、竹中さんからの寄付の使い道）を審議しました。

日程：2021 年 3 月 13 日（土）、14 日（日）

場所・形態： 京都 ・オンライン

参加者：中国四国支部からは U.T.、S.S.、U.S. の 3 名が参加します。

3 ニュージーランドの会員との交流会

U.T.

2020 年 7 月 5 日にニュージーランドの会員 D.W.さんと、中国四国支部会員 6 名でオンライン交流会を行いました。ニュージーランドとの時差は 3 時間。定刻通り全員無事エントリーし、まず、D さんが御夫君の D さんと、愛猫の F 君を紹介してくださり、全員の自己紹介、様々な話題の質疑応答へと進みました。話題はニュージーランドのコロナ対策をはじめ、医療制度、教育、刑務所でのボランティア、女性の地位、など多岐にわたり 2 時間が足りないくらいでした。最後に先住民族のマオリに伝わる歌 Te Aroha を全員で歌って終わりました。成功の陰には、支部会員全員が質問事項をそれぞれしっかり考えて参加したことと、事前準備・当日のホストと司会・事後報告などを一手に引き受けてくれた U 会員の尽力と、28 年間に渡る D 会員との交流があり

ます。以下は参加した支部会員の感想です。

1) ニュージーランドの医療保険制度

H.T.

UさんとDさんが28年来の Servas 友達とのことで今回 Uさんが zoom meeting を主導して下さった。前もって質問事項を出してUさんが英訳しDさんに送信して返事をあらかじめ考えてもらうというUさんの設定のお陰で、当日1時間半に及ぶ meeting は充実した濃いものになったと思う。

Dさんへの私の質問は「日本のようなすべての人に適用される国民健康保険制度があるのかどうか?」でした。New Zealand には2種類の健康保険があつて、1つは、State Insurance 国民健康保険で、物を買う時に支払う15%の消費税の中に医療保険も含まれている。保険口座として支払う制度にはなっていない。弱点は、治療を受けるのに2、3年待つこともある。あと1つは、Personal Insurance 個人保険で、高額だが良質の医療を受けられる。

当日の Zoom meeting ではHは概略しか聞き取れなかったのだが、後日Uさんが和訳を下さってやっと理解できた。翻って自分の健康保険を調べてみた。天引きの介護保険料と口座振替の後期高齢者保険の合計で、年金収入の1割強を支払って納入している。このようにNew Zealand の事例を伺ったお陰で、普段は何気なく年金から天引きされていたりするものを再び調べ直す chance ができた。自分の姉や何人かの知人は体が故障して今自宅で介護を受けている。入浴とか掃除などに来てもらい、理学療法も受けて、デイサービスにも行っている。年金収入の1割強を支払っても役に立っているんだと思い直した。又、所得税は、先進国であるNew Zealand も日本も同じように累進課税だという事が分かった。Dさんは現役で働いておられるのか、税率が17.%と高い。国による違いがあるが私の場合は、年金生活者なので2%だ。

以上、自分の質問を中心に振り返って見たが、Dさんはよく調べて下さっていて、感心した。他に地球変動の問題、corona が変えた日常生活、SDGs,等々自分の周りから世界へ目を向けて意見交換する chance を作りたいものだと考えている。

2) 刑務所でのボランティア

S.S.

このコロナ禍において、人と会っていろいろお話をすることはほとんど不可能である。しかし、サーバス会員のUさんのご尽力により、リモートで、ある立派な方にお会いすることができた。その方は、D.W.というクエーカー教徒の女性である。ズーム会議に参加した6人めいめいが事前に質問を彼女に伝えていて、彼女がそれに丁寧に答えてくれた。

その中で、Dさんが、受刑者である男性を17年間、3週間ごとに刑務所に通って面会をしている、という事を知って、とても興味を感じた。その男性は子供の頃から家庭環境も悪く、麻薬の影響から罪を犯した。2回出所したが、また刑務所に戻っている。その時も、Dさんは、神のようにあらゆる人を愛したら、彼も自分の殻から抜け出ることができるのに、と言って、また面会を継続している。また、彼女は刑務所の中で読み書きを指導する仕事を求めたが、なかなか見つけられなかった、と言っている。

私は刑務所と聞くだけで、後ずさりをしてしまう。その中には危険な人がたくさんいて、危険な場所で、ましてやその中で活動をするなんて、絶対に考えられない。さらに、彼女は、誰かの輝く姿を見ることは、素晴らしい喜びになる、と言っている。クエーカー教徒の教えは、“All Lives Matter Equally” 個人に敬意を払い、尊敬の念で接する、である。始めから終わりまで、Dさんが持っている、あらゆる人に対するとても深い愛には敬服してしまった。温和なお人柄、明瞭な話し方、何事も恐れない強い意志を持った、素晴らしいニュージーランド女性にお会いできて嬉しかったです。

4 コロナ禍における英国サーバス会員との交流

U.S.

イギリス、ブリストル在住のM.L.さんからホスト依頼のe-mailを受け取ったのは3月7日であった。来日の目的は4月20日～27日まで京都で開催される「第14回国連犯罪防止刑事司

法会議」への参加ということだった。

メールを受け取り、すぐその日に日程の調整などで連絡を取り合った。しかし、懸念していた通り、3月25日に「京都コンgres」が中止となり、開催日程未定とのメールを頂いた。翌日すぐに、残念であることをメールでお伝えした。それ以降は、日英や世界の国々におけるCovid-19の感染状況、自分たちの日々の自粛生活の様子、政府の対応への不安、経済と感染のバランスの難しさ、医療従事者への感謝、娘家族とも会えない寂しさと家族の絆、高齢者への地域住民の優しさなどを伝えることで交流が続いた。

Mさんは40年間英国サーバス会員として活動され、ヨーロッパのみならず、南米まで旅をされている。お仕事はart therapist(芸術療法士)として、またブリストル市の調停員として、アフリカ、東ヨーロッパなどに出かけられたこともある。英国のみならず他国でもセラピストグループを運営されている多彩な方である。

Mさんに英国サーバス協会から、海外のサーバス会員との交流記事の依頼があり、私との交流の様子を「英国サーバス会報」に掲載してもいいかとの問い合わせを頂いたのは6月1日であった。私は承諾のお返事を差し上げた。その時、私にも何か書いて欲しいと頼まれたが、学校も始まり、忙しいので、最初はお断りしたが、彼女の記事に触発され、書かせて頂くことになった。

私の方も、「中国四国支部会報」にMさんとの交流記事を10月下旬までに書くことになり、改めて、Mさんとの交信数を数えてみると20回以上もメールのやり取りをしていた。互いを会わせると40回以上もメールのやり取りをしたことになる。その間、近くの山で撮った桜の写真の送付、Mさんの娘さんのwebsiteの紹介、Skype、Zoomなどでの会話のやり取りもあり、楽しい交流となった。

- ① 広島市、岩滝山の桜 ②Mさんの娘さんの作品 ③Zoom トーク



「英国サーバス会報」に掲載された Mさんと私の記事、そして、初めて目にする「英国サーバス会報」も会員の皆様にもご覧頂き、英国のサーバス会員の方々の活動の様子を知って頂き、ご参考にして頂ければ、嬉しいです。

下記の記事は「英国サーバス会報」に掲載されています。

英国サーバス会報 2020 Summer

Travelling with Servas During Lockdown, some of our members are engaging in Virtual Travel. M.L., a Servas Britain host of 40 years, and S.U. of Servas Chugoku-Shikoku Region in Japan, tell us here about their new type of Servas friendship.

M's story: I was busy planning my visit to Japan. I was excited, as I have always wanted to go there. My big chance came when I was funded to attend the United Nations Crime Congress in April 2020 on behalf of Friends World Committee for Consultation (Quakers). It was to be held in Kyoto, eight days long, and I decided to spend another three weeks in Japan. The visit was planned to be from mid-April to mid-May. After organizing travel and hotel for the Congress, I began contacting Servas hosts, first in Kyoto as it is a lovely city and worth spending more time than just the Congress week. Then I wanted to visit Hiroshima and its Peace Park. I planned to spend the last week in Tokyo and had booked a room at the Quaker Centre there. Then came Covid-19. No one knew how long it would last or what would happen about the Congress – initially everyone wanted to continue regardless. But as events unfolded, it became obvious that it would be cancelled or postponed, and this was confirmed on 25 March. I wrote immediately to all three Servas hosts who had agreed to host me. S replied at length. It turned out that she is a teacher of English at a private school, working part-time after retirement – so her English is excellent. And so we developed a correspondence over April and May, emailing every week or fortnight, comparing notes about the way the pandemic was developing in the

two countries. Events in the two countries sometimes proceeded in tandem, sometimes they were out of step with each other. It was interesting to reflect on the similarities and differences. When I told S about the scandal of Covid-19 in care homes for elderly people, she told me a similar story of a home for adults with learning disabilities who had been badly affected. Both in our seventies, we have been hiding away in our houses, unsure whether it is safe to emerge as the two countries lift their lockdown. Neither of us feel confidence in our leaders. We shared other things along the way. I told her about my daughter's basket weaving, and S looked up her website. S told me about her efforts to see this year's cherry blossom, and sent me a photo. We were both anxious about our grandchildren not going to school, finding home-schooling hard and not getting enough exercise. Then S suggested a Skype call. I had thought this would be impossible because of the time difference, but we managed it at 15.00 UK time and 23.00 Japanese time. It was an opportunity to share more personal things about our lives and how we were surviving the pandemic. I asked S if we should write a joint article, but she felt her English wasn't quite good enough – and also she was preparing to resume her teaching job. I offered to write this article, send it to her, and then we would talk on Zoom. We did talk on Zoom (see photo) and exchanged more news. And S was encouraged to write an article to go with mine, which I hope follows this one.

S writes: I received an e-mail from M on 3rd March requesting a host. She planned to come to Hiroshima on 29th & 30th April. I expected to take her to Peace Memorial Park, Shukkeien Garden and Miyajima Island. Then the infection of Covid-19 started spreading over Japan, however I hoped it would cease by the middle of April. The situation became more and more serious. In the end her congress was also cancelled. It was an unexpected happening. Although she could not come to Hiroshima in April, we started exchanging e-mails as she mentioned in her report. My bronchial tubes are not strong enough, so I

often get a high fever when I catch a cold. This Covid-19 likes the people who easily catch a cold and I decided to stay at home as much as possible. I went out to get food only once every 10 to 14 days. Actually I am an extrovert, not an introvert. Naturally such a long stay-home period made me frustrated at the beginning, however thanks to our correspondence, I could share various kinds of information and have found a new way of refreshment for gloomy days. It means that Servas International Organization gave this wonderful opportunity to us! If we have a second Covid-19 infection, let's share information among the Servas members through e-mails, skype or zoom and support each other!

5 お知らせとお願い

- 1) 退会者： M.N.さんが 2021 年 3 月付で退会されます。ご一緒できて楽しかったです。ご事情が許すようになりましたら、再入会をお待ちしています。
- 2) ご寄付： Y 会員から、2021 年 1 月に 1 万円ご寄付いただきました。ありがとうございます。
- 3) LOI 作成方法の変更： 既に 1 月 3 日のメールでお伝えしていますが、2021 年度から電子スタンプを使った LOI となります。作成の手順は本部ホームページの「SOL 利用の手引き」の第 7 章に載っています。疑問点は U までお問い合わせください。
- 4) 2021 年度会費納入のお願い： 1 月末までに 3000 円です。詳細は既にメールでお知らせしておりますのでよろしくお願い致します。
- 5) 次の予定： 2021 年 5 月 16 日（日）支部会
- 6) 広報担当のご挨拶： この度、広報を担当することになりました。未熟者ですが、できるかぎり頑張りたいと思います。会報の原稿をご依頼させていただく際は、ご協力よろしくお願い致します。（S.Y.）

（S.Y.作）

